

アレイダ・ゲバラさんに聞く キューバはエネルギー危機をどう乗り越えたのか

大賀達雄（キューバ連帯の会）



岩垂 弘さん



アンドレスさん



松村真澄さん

2011年8月3日、日本青年館・国際ホールにて、私たちキューバ友好円卓会議は「キューバはエネルギー危機をどう乗り越えたのか—アレイダ・ゲバラさんに聞く」の講演会を行いました。当日は3度目の来日をしたアレイダさんの講演に先立ち、写真家の和田剛さんの「おれとキューバ」と吉田太郎さんの「キューバの防災と電力」の話がありました。

集会は、松村真澄さん（ピースボート）の司会で、はじめに共同代表の岩垂弘さん、続いて駐日キューバ大使館・参事官のアンドレス・バジェステルさんの挨拶で始まりました。和田剛さん、吉田太郎さんのお話を以下記します。



■和田剛さん(写真家)「おれとキューバ」

和田さんは、2010年にキューバを始めて訪れ、帰国後の2011年に「俺とキューバ」と題した写真展を開かれています。この日も、ご自身の撮った写真を映して、何故キューバに行くことになったのか、キューバとの出会いのいきさつ、バレースクールでの映像など、とても個性のある写真ともに、平和なキューバの光景に触れてご自身が癒される楽しいお話を聞くことができました。

■吉田太郎さん（『「防災大国」キューバに世界が注目するわけ』（築地書館）などキューバに関する著書多数） 「キューバの防災と電力」

吉田さんは、「キューバの防災と電力」のテーマで、映像を交えてお話をされました。ハリケーンや台風は、多くの人々の命を奪っています。2005年のハリケーン・カトリーナは2000人近くが亡くなっています。でも最近のキューバでは、ほとんど死傷者は出ていません。それは、日頃から避難訓練を繰り返し、国民に災害情報が正確に伝えられ、緊急時には人々をトラックやバス等に乗せて避難させる態勢を作っています。また、10軒に1軒はコンクリート製の頑丈な家が作られ、1軒の家の中にもコンクリートでできた部屋を作って、避難所としています。電力の供給については、風力、水力、バイオマス等の再生可能エネルギーでの発電に力を入れ、また分散型発電へのシフトをしています。キューバの方法は3つのステップで考えるというものです。それは、①省エネの教育革命、②エネルギーの分散化、③再生可能エネルギーの利用、というものです。



■アレイダ・ゲバラさん（小児科医・アレルギー専門医）「キューバはエネルギー危機をどう乗り越えたのか」



続いて、アレイダ・ゲバラさんのお話がありました。通訳は、富山栄子さん（国際交流・平和フォーラム代表）です。

キューバは、厳しいエネルギー危機を乗り越えてきました。その際、文化的な違いや社会制度の違いを考慮しておく必要があります。キューバは社会主義の国で、国が生産手段を持っています。トラックも国のものなので、そのため、すぐに動員して人々を救うことができますし、革命軍の存在も大きい

です。このように被災の行動は国によって大きな違いがあります。住宅は個人の所有物ですが、キューバ人の連帯感は強いものがあります。家が壊れたら、周りの人が駆けつける態勢があります。このように、キューバは危機に直面して連帯という大きなものを回復させました。



また、石油以外の代替エネルギーを探さなければなりません。原発を使おうという意見もありましたが、被害を食い止める技術を確立していないということでやめています。天然ガスや太陽光、風力、水力発電なども開発しています。現代は快適な生活をするのに電気が必要ですが、同時に自然、環境も守らなければなりません。このエネルギーと環境のバランスを維持することが必要になります。

子どもたちのために、私たちが実現していかなければならないのは、①教育、②人々の中に連帯感を作ること、③世界の諸国民との連帯感を強めていくこと、です。

最後にアレイダさん自身、「東北の地震と津波の被災地を訪れた時、彼らとの連帯を強めなければいけない」という気持ちを持ったことが話され、「兄弟よ、私に手を差し伸べてください、自由という大変小さなものだけど、それを探しに行きましょう」という歌を紹介し、講演を締めくくりました。

その後は、キューバの経済改革や今回の東日本大震災について、キューバ人の関心について等の質疑が行われ、最後にアレイダさんは、「キューバは日本とともに、正義のある社会、尊厳のある平和を求めて、ともに連帯を強めていきたい」と結ばれました。今回もまた、私たちはアレイダさんにとっても勇気を分け与えられたように思います。

講演会参加者は150名でした。



アレイダ・ゲバラさん

フォーラムの当日、会場でおこなったアンケート調査の回答から

★いずれも大変充実したプログラムでした。／★知らないことが多く、参考になった。／★アレイダさんはとても魅力的でした。／★本日の話で、すでにキューバがエネルギー危機に具体的に取り組んでいること、災害対策が非常に充実していることを聞くことができ、日本の指針となることが具体的にわかり、よかった。キューバの生の情報は日本では多くないので、とてもよい機会であった。／★エネルギーについてのお話、とても参考になりました。みんなで実行、実現していくには、こういう機会を増やし、共有していくことが大切だと思います。／★アレイダさんの話では、厳しい時代にお互いに助け合った話が印象的だった。また、原発を拒否し、自然再生エネルギーを選択する過程が良く理解できた。医療、教育以外にもエネルギー選択も素晴らしいことがわかった。／★米国の経済封鎖のために困難な国造りを行っている、その勇気・努力に連帯をしなければ、と思っています。(アレイダさんが)日本の被災地に行かれたことに頭が下がる思いです。／★アレイダさんの話に感動した。米国の経済封鎖に屈することなく、知恵を出し合った。その方向性がますますキューバを、人と人が連帯する国＝強い国にしていると感じた。／★人間の幸せについて考えさせられたフォーラムでした。連帯＝幸せですね。今の日本では、人と人の間が切り離されています。特に原発事故以降、それがあきらかにされました。今こそ日本人もつながるために立ち上がる時だと強くかんがえさせられた一日でした。／★キューバは一度滞在してみたいと思っていた国でした。アレイダさんから「連帯」という強いメッセージをいただきました。キューバから見習うことが日本は多そうですね。／★初めて参加しましたが、来て良かったと思っています。「連帯」という言葉を聞いたのが新鮮でした。／★(キューバが)貧しいながらもよく考えられた社会であることに感心しました。そして連帯感と平和がや行き届いている教育に感心しました。／★アレイダさんのお話は一国の政治、システムの話でありながら、国民の暮らしと感覚に直結していて、なるほどと思わせられました。／★(キューバの)日本との考え方のちがいに感動した。日本はキューバに学ぶことが多いと実感した。／★吉田太郎さんの講演(キューバの防災についての)、とてもよかった。／★吉田さんのハリケーンに関する報告、これからの日本が向かうべき方向もよくわかり、少し希望が湧きました。和田剛さんの写真とトークもおもしろかったです。キューバに行きたくなりました。／★和田さんの写真は、もったくさん見たかったです。

書評

カストロの思想と人間性を伝える格好の書

田中三郎著『フィデル・カストロの「思索」』（同時代社）

岩垂 弘（ジャーナリスト）

キューバ革命を率いてきたフィデル・カストロ氏は、現在、85歳だが、いまなお健在である。

1959年に革命を成就させたカストロ氏はキューバの最高指導者となり、1976年に国家評議会議長（国家元首）兼閣僚評議会議長（首相）に就任、長期にわたってトップの座にあった。が、2006年7月、「激務のため発生した激しい腸の障害の手術、また、

